

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105784
法人名	医療法人 北吉田診療所
事業所名	グループホーム しょうせきあいあい
所在地	松山市南吉田町1872-2
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 21 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、主治医の毎日行われる往診により、医療体制を充実させています。また、終身介護を前提とした運営を行っており、希望される場合は看取りも行います。細めにバイタル測定を行い、栄養バランスに気を配った食事を提供するなど、利用者一人ひとりの日々の健康管理を徹底し、利用者やご家族に安心をお届けできる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表者は6年前に診療所を開業し、地域医療に貢献しており地域住民からの信頼も厚い。医療面での支援の必要な利用者は在宅で介護、看護することの困難なことを管理者は十分理解しており、困っている人の手助けになるならと重度の利用者の受け入れをしている。看取りについても積極的に取り組んでおり、利用者や家族等の意向を踏まえ、寄り添いながら支援している。家族は最期まで看ってもらうことで安心でき、心にゆとりを持つことができている。今後も利用者や家族が安心できるサービスの提供ができるよう職員全員で取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム しょうせきあいあい

(ユニット名) あいちゃん

記入者(管理者)

氏名 村田 佳乃

評価完了日

25 年 10 月 21 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ユニット入り口に理念を掲載し、職員がいつでも確認できるようにし、実現に向けて医療・介護が連携し、業務にあたるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を基にして職員全員で話し合い、分かりやすい言葉で表した事業所理念を作成し、各ユニットの入り口に掲示している。理念は管理者をはじめ職員全員が共有し、意識しながら日々の業務に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭には利用者ならびに職員が参加し、地域交流を深めている。近くの公園や川に散歩に行ったり、近所の理容店へ出かけたり、外出できない利用者には出張してもらったりしている。</p> <p>(外部評価) 代表者は6年前に地域に診療所を開業し、地域医療に貢献するなど地域住民からの信頼も厚い。近隣の幼稚園児との交流やボランティアの訪問が頻繁にあり、地域とのつながりを大切にしている。法人の地方合同祭には利用者や家族、地域住民が参加があり盛大に行われている。職員はボランティア活動にも参加するなど、地域との交流が深まるよう努めている。</p>	地域住民とのつながりを持つ努力を継続して行い、事業所内の様子を見てもらうなど気軽に行き来できるような関係づくりを期待したい。また、近くに駐在所があることから運営推進会議への参加を呼びかけ、緊急時や災害時の協力体制が築けるような取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進鍵や家族会、院長の医療講話を通じて、家族ならびに地域の方に、医療や介護への理解を深めていただくよう努力している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議にご家族や同業者、地域の方に参加して いただき、事業報告や行事の報告を行い、意見交換の場として いる。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、市担当者、地域包括支援 センターの職員、地域住民等の参加を得て開催している。 会議では事業所の活動報告や課題について意見交換をする ほか、一緒に試食会を行ったり「グループホームとは」等 のテーマで代表者が講話をしたりする工夫をしている。ま た、他のグループホームからの参加もあり、貴重な意見を 聞くことができている。職員も交代で会議に参加し、サー ビスの質の向上につなげている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市や地域包括支援センターの担当者には、運営推進会議の 場で意見交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 市担当者や地域包括支援センターの職員は運営推進会議に 参加し、事業所の報告を行うほかに利用者の相談等、連携 を深めている。また、運営についても報告や相談が気軽に できる良好な関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は生命の危機を及ぼすような医療的な場合のみと する。また、判断は職員個人で行うのではなく施設全体で 判断し、利用者本人やご家族に対し十分説明し、理解を頂 くよう努めている。</p> <p>(外部評価) 重度化により点滴等が必要な利用者には、安全面を考え拘 束を行う場合があるが、利用者や家族の同意を得ている。 また、継続的にならないよう十分配慮している。言葉での 拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応ができ るよう努めている。職員は身体拘束の研修等にも参加し、 研修の報告をするなど職員間で共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者第一の考えを職員に浸透させるよう努め、職員同士が気を付け合い、虐待がおきないように注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 適応者には、身体障害者手帳や生活保護の申請を積極的に行い、支援をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には担当職員が、利用者ならび家族に重要事項を説明し、納得して頂いた上で契約の締結等を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会での意見交換の場や、面会に来られた家族から意見、要望を頂き、職員同士で話し合い、意見を検討し事業所のケアサービスの質の向上に努めている。	
			(外部評価) 家族の訪問時に意見や要望を聞き取るよう努めている。家族からの意見は少ないが些細なことでも対応できるよう心がけている。また、聞き取った意見や要望は管理者や職員で話し合い、運営に反映されるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員一人一人の意見を日々の申し送り等で聞き、アイデアを可能な限り反映させている。	
			(外部評価) 管理者は日々の申し送り等で職員の意見を聞くよう努めている。職員が働きやすいようシフト組みにも配慮している。管理者と職員は気づきや提案を言いやすい関係を築きながら、利用者本位のケアが実践できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与査定を行い、職員個々の意欲向上を図っている。また、定期的なユニット異動でマンネリ化を防いでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多施設の運営推進会議や、各種セミナーに参加したり、勉強会や日々の指導により自己のスキルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議等で、積極的に相互訪問の機会を設け、サービスの質の向上に努めている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学希望があれば、積極的に受け入れ、施設内や日中の過ごし方を説明している。意見・要望を取り入れ、活かしていくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 個別の面談の際に、サービスを利用することになった経緯や事情、利用者の状態や生活の様子をしっかりと聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人ならびに家族との面談を通じて、必要としている支援を見極め、本人・家族からの要望についての話し合いを看護師、介護士らで行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 普段の本人との会話を中心に、生活の場での知識や知恵を教えていただいたりと、家族のような関係を築けていけるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 年賀状で利用者の写真を家族へ送ったりし、ホームでの様子が家族に伝わるように工夫し、本人との絆を大切にしてくるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 天気が良い日には、近くの川に散歩に出かけたりしている。また、家族が来られ、一緒に外出したり、近所の理容店に散髪に行ったりしている。  (外部評価) 事業所には友人や知人の訪問があり、職員は快く迎え入れをしている。利用者が馴染みの場所などに出かけられるよう家族の協力を得て支援している。また、利用者が知人に電話したり手紙を出せるよう支援する等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや行事等で、多くの利用者で楽しめる機会をつくり、利用者同士で関わり合う時間を増やすよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 運営推進会議等を通じて、地域との連携を強め、サービス利用が終了しても、必要に応じて本人ならびに家族のフォローができるように努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の関わり合いの中で得た情報や家族からの意見・要望をもとに、利用者一人一人の意思を尊重したケアを行うよう努力している。  (外部評価) 利用者の一人ひとり向き合いながら、思いや希望を聞き取り自然な暮らしが送れるよう支援が行われている。また、日々の関わりの中で職員から声かけをし、会話の中から思いや意向を把握するよう努めている。あまり希望を出さない利用者には、職員が関わる時間を多く持ち理解するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から、これまでの暮らしについての情報を収集したり、以前利用していた施設等からの情報をもとに、本人のこれまでの暮らしを把握するよう努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の対話やバイタル測定等で本人の心身状態を把握するよう努めている。また、普段と変わったところがあれば記録をとり、情報を職員間で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の状態や状況を考慮し、本人・職員と話し合い、思いや意向をふまえて計画作成、プランの見直しに努めている。  (外部評価) より良い暮らしが送れるように利用者や家族の意向を聞きながら、計画作成担当者を中心に話し合い、介護計画を作成している。3か月に1回、モニタリングを行い評価をしている。管理者は職員の意見を聞き取りながら、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子から会話や出来事を記録し、気づいたことを職員間で情報共有し、介護計画の見直しに役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて一人一人の要望に応じていけるように、日々の関わり合いを心がけている。併設している小規模と合同レクや行事を行い、マンネリ化しないよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源を把握するため、地方祭や町内総会に参加し、交流を深めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 主治医の往診が毎日あり、症状の変化に的確に対応してい る。急変時にも主治医やスタッフで迅速に対応、処置し、 健康管理に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者全員は母体の診療所をかかりつけ医としている。緊 急時には24時間体制で対応が可能で、利用者は医療面で 安心感がある。専門医は家族の協力を得て受診することが できる。また、家族が同行できない場合は、職員が同行 し、医師に利用者の状態の報告等を行い、連携を図りなが ら支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者の日常の状態を把握し、変化や異常があればバイタ ル測定等を行い、看護師に状態を報告する。その後、看護 師より主治医に状態報告を行い、対応している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 医療機関と連携をとり、相談・情報交換等を行い、早期退院 に努めている。また、退院後も継続して療養できる環境、 人員を整えている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 終身介護を前提としており、看取りも数多く行っている。 その際は、主治医が早い段階から、本人・家族に対し十分 に説明し、最善の医療が行えるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 事業所では母体の診療所と協力をしながら積極的に看取り に取り組んでいる。利用者の状態の変化の段階に応じて、 医師、家族、職員で話し合いを行い、利用者や家族の希望 に沿うよう事業所全体で支援している。事業所の看護師が 不在時には母体の診療所の看護師が対応するなど、安心で きる体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会等を開き、医師や看護師にも参加してもらい、職員に対し指導している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、避難経路の確認、搬送方法を教わり、訓練を通して緊急時に備えている。  (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て防災訓練を実施している。利用者の安全確保のため、職員全員で防災意識を高めるよう努めている。地域住民に運営推進会議を活用して協力を呼びかけている。また、職員だけの避難誘導は限界があるため、さらなる防災対策を検討している。	事業所は建物の2階にあり、利用者が重度化しているため災害時には相当な混乱が予測される。引き続き職員の初期消火の訓練や防災に対する意識づけを行うことを望みたい。また、地域住民の協力は得にくい状況にあるが、運営推進会議等で継続して協力を呼びかけを行う姿勢が重要である。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に人生の先輩であるという目で丁寧に声掛けを行っている。入浴、おむつ交換等は戸を閉め、プライバシー保護に努めている。  (外部評価) 職員は利用者のプライドを傷つけないように声かけに注意している。排泄や入浴時に利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないように配慮しながらケアに努めている。管理者は職員と話す機会を持ち、意識づけするよう努めている。また、職員から利用者一人ひとりの人格を尊重する姿勢が伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何をどうしたいか、会話の中で希望を伺い、選択できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人の要望をしっかりと傾聴し、その人らしい生活のペースが保てるよう、可能な限り支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節や天候に合った服を選ぶようにしている。また、本人が散髪を希望した場合は日時等調整し、希望を叶えられるよう努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の材料を使ったり、年中の行事に合わせた献立を考えるなど、利用者の飽きがこないよう工夫している。味付けや調理方法等のアドバイスも頂いたりして、一緒に楽しんでいる。	
			(外部評価) 併設する小規模多機能型居宅介護事業所の厨房で食事を用意している。ご飯とお茶が各ユニットで用意され、ご飯の炊きたての臭いを感じることができる。利用者の好みのメニューを取り入れ、利用者が楽しめる工夫をしている。医療面で支援の必要な利用者も職員の見守る中、笑顔で楽しく食事ができている。また、利用者の状態に合わせ調理法を変えて対応するなど、食事を楽しむことを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日食事量・水分量を記録し確認している。食事量、水分量が少ないようであれば、本人の好む物を家族に相談して用意してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 1日3回食後に口腔ケアを行っており、磨けているか職員が確認している。また、食事をされていない利用者も1日3回ガーゼで口腔内を拭いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々のトイレ回数、時間は記録をとり、排泄パターンを把握するよう努めている。食後に声を掛けたりし、少しでもトイレにて排泄できるよう努めている。  (外部評価) 利用者の状態に応じながら記録を確認し、トイレ誘導をしている。重度化に伴い、オムツを使用している利用者が増え、トイレでの排泄や自立支援の取組みが難しくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) メニューに野菜を多く取り入れたり、利用者一人一人の排便回数、水分量、食事量を必ず記録している。排便のない日が続いた利用者には、主治医の指示で緩下剤を使用したり、便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の健康状態や気分を考慮し、体調の優れない場合や拒否の強い場合には無理強いしないように日をずらしたりし工夫している。  (外部評価) 夏場は週3回、冬場は週2回を基本として入浴することができる。オムツを使用している利用者には、陰部洗浄を行うなど清潔を保てるよう心がけている。入浴の苦手な利用者には時間をずらしたり声かけ等に工夫をして気持ちよく入浴できるよう支援している。また、利用者に応じて同性介助の対応もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転の方は日中の覚醒と活動を促したり、生活のリズムを把握し、良眠を支援できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書を各利用者のファイルに保管し、いつでも用法、用量、副作用等が確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員と一緒に洗濯物をたたんでいただいたり、野球、相撲等の会話を楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候や体調等を考慮し、近くの公園に桜を見に行ったり、初詣、祭りに行くなど、季節に合わせたイベント参加に努めている。  (外部評価) 利用者の重度化に伴い外出することは難しくなってきたが、利用者毎に個別の時間を取り、近くの川へ鯉の餌やりや庭先に出て茶話会をするなど外出や外気に触れるよう支援している。事業所の前に移動販売のパン屋さんが来る日は利用者の楽しみとなっている。季節毎に花見や祭りを見に行くなど、少しでも多く外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金は利用者の居室ではなく事務所で保管している。買い物等で現金が必要な場合は、その都度お渡しして、本人の希望時に使えるよう考慮している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状を送ったり、本人に電話があった際は職員が取りつぎ、ゆっくり話しができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって 不快や混乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 天気の良い日は外に出てレクリエーションを行ったり、外 の空気にふれるよう努めている。床暖房やエアコンを使用 し、季節にあった室温にしている。</p> <p>(外部評価) リビングは車いすが行き来できるような広い空間となってい る。畳スペースもあるが、現在使用する利用者はいない。 テレビは利用者同士の会話や職員の関わりを多く持てるよ う配慮して置かれていない。また、平行棒が置かれ、利用 者の歩行機能を維持できるよう訓練が行われている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づ くり 共用空間の中で、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせるよ うな居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにテレビを置かず、職員が声掛けし話題を提供し たりレクリエーションをしたりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族 と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室では利用者が使い慣れた家具やご家族の写真、レクリ エーションで作った作品等を飾り、心地よく過ごして頂け るよう努めている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられて いる。利用者が使い慣れたイスやダンス、ぬいぐるみ等が 持ち込まれ居心地の良い空間となっている。また、家族と の写真を飾るなど、利用者が落ち着いて生活できるよう配 慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつで きるだけ自立した生活が送れるように工夫 している	<p>(自己評価) トイレの場所がわかるように紙に大きく書いて貼ったり、 自分の部屋を認識しづらい利用者には付き添って部屋へ移 動する等、安全に配慮し、安心して暮らせるよう努めてい る。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105784
法人名	医療法人 北吉田診療所
事業所名	グループホーム しょうせきあいあい
所在地	松山市南吉田町1872-2
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 21 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、主治医の毎日行われる往診により、医療体制を充実させています。また、終身介護を前提とした運営を行っており、希望される場合は看取りも行います。細めにバイタル測定を行い、栄養バランスに気を配った食事を提供するなど、利用者一人ひとりの日々の健康管理を徹底し、利用者やご家族に安心をお届けできる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表者は6年前に診療所を開業し、地域医療に貢献しており地域住民からの信頼も厚い。医療面での支援の必要な利用者は在宅で介護、看護することの困難なことを管理者は十分理解しており、困っている人の手助けになるならと重度の利用者の受け入れをしている。看取りについても積極的に取り組んでおり、利用者や家族等の意向を踏まえ、寄り添いながら支援している。家族は最期まで看ってもらうことで安心でき、心にゆとりを持つことができている。今後も利用者や家族が安心できるサービスの提供ができるよう職員全員で取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム しょうせきあいあい

(ユニット名) しょうちゃん

記入者(管理者)

氏名 村田 佳乃

評価完了日 25 年 10 月 21 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ユニット入り口に理念を掲載し、職員がいつでも確認できるようにし、実現に向けて医療・介護が連携し、業務にあたるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を基にして職員全員で話し合い、分かりやすい言葉で表した事業所理念を作成し、各ユニットの入り口に掲示している。理念は管理者をはじめ職員全員が共有し、意識しながら日々の業務に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭には利用者ならびに職員が参加し、地域交流を深めている。近くの公園や川に散歩に行ったり、近所の理容店へ出かけたり、外出できない利用者には出張してもらったりしている。</p> <p>(外部評価) 代表者は6年前に地域に診療所を開業し、地域医療に貢献するなど地域住民からの信頼も厚い。近隣の幼稚園児との交流やボランティアの訪問が頻繁にあり、地域とのつながりを大切にしている。法人の地方合同祭には利用者や家族、地域住民が参加があり盛大に行われている。職員はボランティア活動にも参加するなど、地域との交流が深まるよう努めている。</p>	地域住民とのつながりを持つ努力を継続して行い、事業所内の様子を見てもらうなど気軽に行き来できるような関係づくりを期待したい。また、近くに駐在所があることから運営推進会議への参加を呼びかけ、緊急時や災害時の協力体制が築けるような取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進鍵や家族会、院長の医療講話を通じて、家族ならびに地域の方に、医療や介護への理解を深めていただくよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議にご家族や同業者、地域の方に参加して いただき、事業報告や行事の報告を行い、意見交換の場として いる。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、市担当者、地域包括支援 センターの職員、地域住民等の参加を得て開催している。 会議では事業所の活動報告や課題について意見交換をする ほか、一緒に試食会を行ったり「グループホームとは」等 のテーマで代表者が講話をしたりする工夫をしている。また、 他のグループホームからの参加もあり、貴重な意見を 聞くことができている。職員も交代で会議に参加し、サー ビスの質の向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市や地域包括支援センターの担当者には、運営推進会議の 場で意見交換を行っている。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センターの職員は運営推進会議に 参加し、事業所の報告を行うほかに利用者の相談等、連携 を深めている。また、運営についても報告や相談が気軽に できる良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は生命の危機を及ぼすような医療的な場合のみと する。また、判断は職員個人で行うのではなく施設全体で 判断し、利用者本人やご家族に対し十分説明し、理解を頂 くよう努めている。	
			(外部評価) 重度化により点滴等が必要な利用者には、安全面を考え拘 束を行う場合があるが、利用者や家族の同意を得ている。 また、継続的にならないよう十分配慮している。言葉での 拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応ができ るよう努めている。職員は身体拘束の研修等にも参加し、 研修の報告をするなど職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者第一の考えを職員に浸透させるよう努め、職員同士が気を付け合い、虐待がおきないように注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 適応者には、身体障害者手帳や生活保護の申請を積極的に行い、支援をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には担当職員が、利用者ならび家族に重要事項を説明し、納得して頂いた上で契約の締結等を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会での意見交換の場や、面会に来られた家族から意見、要望を頂き、職員同士で話し合い、意見を検討し事業所のケアサービスの質の向上に努めている。	
			(外部評価) 家族の訪問時に意見や要望を聞き取るよう努めている。家族からの意見は少ないが些細なことでも対応できるよう心がけている。また、聞き取った意見や要望は管理者や職員で話し合い、運営に反映されるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員一人一人の意見を日々の申し送り等で聞き、アイデアを可能な限り反映させている。	
			(外部評価) 管理者は日々の申し送り等で職員の意見を聞くよう努めている。職員が働きやすいようシフト組みにも配慮している。管理者と職員は気づきや提案を言いやすい関係を築きながら、利用者本位のケアが実践できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与査定を行い、職員個々の意欲向上を図っている。また、定期的なユニット異動でマンネリ化を防いでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多施設の運営推進会議や、各種セミナーに参加したり、勉強会や日々の指導により自己のスキルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議等で、積極的に相互訪問の機会を設け、サービスの質の向上に努めている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学希望があれば、積極的に受け入れ、施設内や日中の過ごし方を説明している。意見・要望を取り入れ、活かしていくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 個別の面談の際に、サービスを利用することになった経緯や事情、利用者の状態や生活の様子をしっかりと聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人ならびに家族との面談を通じて、必要としている支援を見極め、本人・家族からの要望についての話し合いを看護師、介護士らで行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 普段の本人との会話を中心に、生活の場での知識や知恵を教えていただいたりと、家族のような関係を築けていけるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 年賀状で利用者の写真を家族へ送ったりし、ホームでの様子が家族に伝わるように工夫し、本人との絆を大切にしてくるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 天気が良い日には、近くの川に散歩に出かけたりしている。また、家族が来られ、一緒に外出したり、近所の理容店に散髪に行ったりしている。  (外部評価) 事業所には友人や知人の訪問があり、職員は快く迎え入れをしている。利用者が馴染みの場所などに出かけられるよう家族の協力を得て支援している。また、利用者が知人に電話したり手紙を出せるよう支援する等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや行事等で、多くの利用者で楽しめる機会をつくり、利用者同士で関わり合う時間を増やすよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 運営推進会議等を通じて、地域との連携を強め、サービス利用が終了しても、必要に応じて本人ならびに家族のフォローができるように努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の関わり合いの中で得た情報や家族からの意見・要望をもとに、利用者一人一人の意思を尊重したケアを行うよう努力している。  (外部評価) 利用者の一人ひとり向き合いながら、思いや希望を聞き取り自然な暮らしが送れるよう支援が行われている。また、日々の関わりの中で職員から声かけをし、会話の中から思いや意向を把握するよう努めている。あまり希望を出さない利用者には、職員が関わる時間を多く持ち理解するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から、これまでの暮らしについての情報を収集したり、以前利用していた施設等からの情報をもとに、本人のこれまでの暮らしを把握するよう努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の対話やバイタル測定等で本人の心身状態を把握するよう努めている。また、普段と変わったところがあれば記録をとり、情報を職員間で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の状態や状況を考慮し、本人・職員と話し合い、思いや意向をふまえて計画作成、プランの見直しに努めている。  (外部評価) より良い暮らしが送れるように利用者や家族の意向を聞きながら、計画作成担当者を中心に話し合い、介護計画を作成している。3か月に1回、モニタリングを行い評価をしている。管理者は職員の意見を聞き取りながら、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子から会話や出来事を記録し、気づいたことを職員間で情報共有し、介護計画の見直しに役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて一人一人の要望に応じていけるように、日々の関わり合いを心がけている。併設している小規模と合同レクや行事を行い、マンネリ化しないよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源を把握するため、地方祭や町内総会に参加し、交流を深めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 主治医の往診が毎日あり、症状の変化に的確に対応してい る。急変時にも主治医やスタッフで迅速に対応、処置し、 健康管理に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者全員は母体の診療所をかかりつけ医としている。緊 急時には24時間体制で対応が可能で、利用者は医療面で 安心感がある。専門医は家族の協力を得て受診することが できる。また、家族が同行できない場合は、職員が同行 し、医師に利用者の状態の報告等を行い、連携を図りなが ら支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者の日常の状態を把握し、変化や異常があればバイタ ル測定等を行い、看護師に状態を報告する。その後、看護 師より主治医に状態報告を行い、対応している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 医療機関と連携をとり、相談・情報交換等を行い、早期退院 に努めている。また、退院後も継続して療養できる環境、 人員を整えている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 終身介護を前提としており、看取りも数多く行っている。 その際は、主治医が早い段階から、本人・家族に対し十分 に説明し、最善の医療が行えるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 事業所では母体の診療所と協力をしながら積極的に看取り に取り組んでいる。利用者の状態の変化の段階に応じて、 医師、家族、職員で話し合いを行い、利用者や家族の希望 に沿うよう事業所全体で支援している。事業所の看護師が 不在時には母体の診療所の看護師が対応するなど、安心で きる体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会等を開き、医師や看護師にも参加してもらい、職員に対し指導している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、避難経路の確認、搬送方法を教わり、訓練を通して緊急時に備えている。  (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て防災訓練を実施している。利用者の安全確保のため、職員全員で防災意識を高めるよう努めている。地域住民に運営推進会議を活用して協力を呼びかけている。また、職員だけの避難誘導は限界があるため、さらなる防災対策を検討している。	事業所は建物の2階にあり、利用者が重度化しているため災害時には相当な混乱が予測される。引き続き職員の初期消火の訓練や防災に対する意識づけを行うことを望みたい。また、地域住民の協力は得にくい状況にあるが、運営推進会議等で継続して協力を呼びかけを行う姿勢が重要である。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に人生の先輩であるという目で丁寧に声掛けを行っている。入浴、おむつ交換等は戸を閉め、プライバシー保護に努めている。  (外部評価) 職員は利用者のプライドを傷つけないように声かけに注意している。排泄や入浴時に利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないように配慮しながらケアに努めている。管理者は職員と話す機会を持ち、意識づけするよう努めている。また、職員から利用者一人ひとりの人格を尊重する姿勢が伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何をどうしたいか、会話の中で希望を伺い、選択できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人の要望をしっかりと傾聴し、その人らしい生活のペースが保てるよう、可能な限り支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節や天候に合った服を選ぶようにしている。また、本人が散髪を希望した場合は日時等調整し、希望を叶えられるよう努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の材料を使ったり、年中の行事に合わせた献立を考えるなど、利用者の飽きがこないよう工夫している。味付けや調理方法等のアドバイスも頂いたりして、一緒に楽しんでいる。	
			(外部評価) 併設する小規模多機能型居宅介護事業所の厨房で食事を用意している。ご飯とお茶が各ユニットで用意され、ご飯の炊きたての臭いを感じることができる。利用者の好みのメニューを取り入れ、利用者が楽しめる工夫をしている。医療面で支援の必要な利用者も職員の見守る中、笑顔で楽しく食事ができている。また、利用者の状態に合わせ調理法を変えて対応するなど、食事を楽しむことを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日食事量・水分量を記録し確認している。食事量、水分量が少ないようであれば、本人の好む物を家族に相談して用意してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 1日3回食後に口腔ケアを行っており、磨けているか職員が確認している。また、食事をされていない利用者も1日3回ガーゼで口腔内を拭いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々のトイレ回数、時間は記録をとり、排泄パターンを把握するよう努めている。食後に声を掛けたりし、少しでもトイレにて排泄できるよう努めている。  (外部評価) 利用者の状態に応じながら記録を確認し、トイレ誘導をしている。重度化に伴い、オムツを使用している利用者が増え、トイレでの排泄や自立支援の取組みが難しくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) メニューに野菜を多く取り入れたり、利用者一人一人の排便回数、水分量、食事量を必ず記録している。排便のない日が続いた利用者には、主治医の指示で緩下剤を使用したり、便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の健康状態や気分を考慮し、体調の優れない場合や拒否の強い場合には無理強いしないように日をずらしたりし工夫している。  (外部評価) 夏場は週3回、冬場は週2回を基本として入浴することができる。オムツを使用している利用者には、陰部洗浄を行うなど清潔を保てるよう心がけている。入浴の苦手な利用者には時間をずらしたり声かけ等に工夫をして気持ちよく入浴できるよう支援している。また、利用者に応じて同性介助の対応もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転の方は日中の覚醒と活動を促したり、生活のリズムを把握し、良眠を支援できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書を各利用者のファイルに保管し、いつでも用法、用量、副作用等が確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員と一緒に洗濯物をたたんでいただいたり、野球、相撲等の会話を楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候や体調等を考慮し、近くの公園に桜を見に行ったり、初詣、祭りに行くなど、季節に合わせたイベント参加に努めている。  (外部評価) 利用者の重度化に伴い外出することは難しくなってきたが、利用者毎に個別の時間を取り、近くの川へ鯉の餌やりや庭先に出て茶話会をするなど外出や外気に触れるよう支援している。事業所の前に移動販売のパン屋さんが来る日は利用者の楽しみとなっている。季節毎に花見や祭りを見に行くなど、少しでも多く外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金は利用者の居室ではなく事務所で保管している。買い物等で現金が必要な場合は、その都度お渡しして、本人の希望時に使えるよう考慮している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状を送ったり、本人に電話があった際は職員が取りつぎ、ゆっくり話しができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 天気の良い日は外に出てレクリエーションを行ったり、外の空気にふれるよう努めている。床暖房やエアコンを使用し、季節にあった室温にしている。</p> <p>(外部評価) リビングは車いすが行き来できるような広い空間となっている。畳スペースもあるが、現在使用する利用者はいない。テレビは利用者同士の会話や職員の関わりを多く持つよう配慮して置かれていない。また、平行棒が置かれ、利用者の歩行機能を維持できるよう訓練が行われている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにテレビを置かず、職員が声掛けし話題を提供したりレクリエーションをしたりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室では利用者が使い慣れた家具やご家族の写真、レクリエーションで作った作品等を飾り、心地よく過ごして頂けるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられている。利用者が使い慣れたイスやダンス、ぬいぐるみ等が持ち込まれ居心地の良い空間となっている。また、家族との写真を飾るなど、利用者が落ち着いて生活できるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレの場所がわかるように紙に大きく書いて貼ったり、自分の部屋を認識しづらい利用者には付き添って部屋へ移動する等、安全に配慮し、安心して暮らせるよう努めている。</p>	